

現在の景気：県内景気は、緩やかな持ち直し傾向が続いている。非製造業では、観光や飲食などの対面型サービス業の回復が続いているほか、自動車や百貨店の販売も底堅く推移している。製造業では、海外需要の鈍さなどから生産活動の足踏みが続いている。この間、建設需要は、交通インフラ整備や物流施設などの官民プロジェクトの進展などを背景に総じて底堅く推移しているが、建設コスト上昇等から住宅着工に弱さがみられる。

3か月程度の見通し：非製造業は、物価高や人手不足の影響を受けつつも、対面型サービス業を中心に持ち直しの動きが続くとみられる。製造業では、海外需要の鈍さの影響が続くとみられる。

個人消費：①上向き。②11月の県内百貨店（存続店ベース）の売上げは、前年同月比1.9%増と3か月ぶりに前年を上回った（19年同月比では4.1%減）。気温が下がり冬物衣類が回復したほか、雑貨や化粧品なども堅調に推移した。12月入り後も、防寒グッズなどを中心に好調が続いた模様。11月の自動車登録台数は、同12.4%増と15か月連続で前年を上回った（19年比では6.8%増）。一般乗用車（同15.8%増）、軽自動車（前年同月比5.8%増）ともに増加した。

住宅建築：①減少。②11月の新設住宅着工戸数は前年同月比2.2%減少し、6か月連続で前年を下回った。分譲（同7.2%増）は増加したが、持家（同6.9%減）、貸家（同5.6%減）が減少した。

設備投資：①堅調。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、11月の工事床面積（年度初来累計）は前年同月比6.8%増加し、工事予定額は同17.3%増加した。ひまわりベンチャー育成基金（調査研究部門：千葉経済センター）による県内企業199社アンケート調査（9～10月実施）では、23年度の設備投資計画額（全産業、9月末時点）は、22年度実績額の2.6倍で、期初計画比でも2.3%増の増額修正となった。

公共工事：①増加基調。②11月の県内公共工事請負額（年度初来累計）は、前年同月比2.3%増加した。独立行政法人等（前年同月比15.4%減）、市町村（同3.9%減）は減少したが、県（同11.4%増）、国（同5.2%増）が増加した。

輸出：①減少基調。②11月の成田、千葉、木更津3港合計通関輸出額は、前年同月比2.5%増と9か月ぶりに増加した。成田空港は、半導体等製造装置（同17.5%減）や科学光学機器（同13.0%減）などが減少し、同2.2%減と9か月連続で前年を下回った。千葉港は、石油製品（同125.6%増）や有機化合物（同37.2%増）などの増加により、同83.3%増と3か月連続で前年を上回った。木更津港は、自動車（同15.7%増）や鉄鋼（同4.4%増）などが増加し、同22.4%増と10か月連続で増加した。

生産活動：①一進一退。②10月の県鉱工業生産指数（季調済）は、89.3（前月比0.6%上昇）と2か月ぶりに上昇した。食料品工業（同2.9%低下）などは低下したものの、鉄鋼業（同9.7%上昇）や化学工業（同1.6%上昇）などが上昇した。

観光：①拡大。②県内の観光・宿泊施設では、好調な入込が続いている。クリスマスシーズンを迎え、東京ディズニーリゾートの「ディズニー・クリスマス」（11月8日～12月25日）やマザー牧場の「トナカイひつじがやってくる」（12月16日～25日）など特別イベントが催され、多くの人出で賑わった。

雇用情勢：①足踏み。②11月の有効求人倍率（季調値）は、0.96倍（前月比0.03ポイント低下）と2か月連続で低下した。有効求職者数が前月と同水準だった一方、有効求人者数（同3.4%減）が減少した。

【トピックス】

- 成田国際空港は、年間発着回数の増加など空港機能強化に向けて、2029年3月までに供用開始する第3滑走路（C滑走路）の準備工事に着手した（6日）。
- JR東日本千葉支社が、3月のダイヤ改正で京葉線の「ノンストップ通勤快速（朝夕上下2本ずつ）」を廃止し、各駅停車へ変更することを発表した（15日）。千葉市と県は、沿線や県南部の利便性が大きく悪化するとして反発している。
- 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）は、都道府県別の人口将来推計を発表した（22日）。千葉県では、2020年の628万4千人から50年には569万人へと減少する見通し。自治体別では、同期間で人口が増えるのは、流山市（21%増）、印西市（17%増）、柏市（2%増）、船橋市（1%増）の4市のみ。